



Dr.諸富の

ガンバレ!先生 応援サプリ



最近、諸富先生が受ける教師の方々からの相談の約8割が

保護者との関係にまつわる悩みだそうです。

そこで今回は、諸富先生ならではの、保護者との良好な関係作りの処方箋です。

取材・文／清水由佳 撮影／関本陽介 イラスト／藤井昌子

処方箋④

保護者との関係は先手必勝!

**単独系モンスターさんと
軍団系モンスターさん**

これまで私もとに寄せられた悩みの中には、「教室に盗聴器をしかけられ授業内容に逐文句をうけられた」「学校のフックスに15分に1通の文句が半年間続いた」「教師の個人の携帯番号への崩壊」などなど、まさに「ブレーキが利かない状態」としか言いようのないケースが多くあります。

一つは単独系モンスター。保護者の方々の中でも孤立しているとの多いモンスターさんです。最近は、家族や夫婦の関係のうまくいっていないお父さんが、「俺だってやるときはやるぞ」と力を誇示するために、モンスター化するケースが目につきます。

もう一つは、軍団系モンスター。ファミレスなどで保護者の方々の話が盛り上がり、「あの先生、気に入らないから辞めさせちゃおうよ」となって、つるしあげられてしまうケースです。

それらのいわゆる「モンスター・ペアレ

ンツ」の多くは、小・中学校が中心ですが、高校でも保護者との関係の変化に悩んでいる先生方が多いはずです。高校生にもなれば、保護者の方々もある程度距離を持つて教師と接していますが、何か「おこると、「先生なのに…」となるわけです。

子どもの良いところを必ず見つけてほめてあげる

また、生徒の評判のいい先生は、保護者からの信頼も高くなります。そのためには、まず授業をわかりやすくする。中学校では「ひいきする先生が最も嫌われますが、高校の場合、授業がわからない先生が一番嫌われます。

そして、生徒一人ひとりの良いところにも大事なのは、「生徒のことをきちんと見ている観察力」と「保護者の疑問にきちんと答える報告力」を身につけることです。

諸富祥彦先生 (<http://morotomi.net/>)

もろとも・よしむこ●明治大学文学部教授・臨床心理士・教育学博士。1963年福岡県生まれ。筑波大学人間学類・同大学院博士課程修了。千葉大学教育学部助教授を経て、明治大学文学部教授に。全国の悩める教師のためのセルフヘルピングやネットワーキングを支援する「教師を支える会」代表。時代の精神(ニヒリズム)と闘うカウンセラー。「7つの力」を育てるキャリア教育など、教師を応援する著書多数。

頼を得る良い教師とは、多くの場合、若い女性にもてた教師だ。恋愛力も教師力も、根は同じ。まあさである」といきます。まさにその通り(笑)。

そして、常に先手必勝!生徒のことで何か気になる」とがあるたら、自分から連絡する姿勢で臨んでください。

くくんの笑顔にはいつも心が温まる」など、最初にひと言ほめてあげてください。親は誰でも自分の子どもが相当かわいいんです。それなのに、いきなり「勉強ができない」と言われば、ガッカリされます。デリカシーを持つて接してあげてください。教師からすると40分の1の生徒。でも、親の立場からすればたった一人の子どもの担任。親の気持ちになつてみることがとても大事です。

最後に、何かことがあったとき支えになるのは、やはり教員同士のサポートです。同僚や管理職から、「今度その保護者が来たら、一緒に会おう」と言ってもらえば、「一人じゃない。仲間がいるんだ」とわかる。そんな心の支えとなる関係が、教師を続けていく勇気につながります。